MHB研究大会　応募原稿作成ガイド

2017年度大会実行委員

１．提出方法

1. 提出物：

「応募者情報フォーム」と「応募原稿」の両方を、MS wordのファイルの形で大会実行委員にメールで提出する。

1. 送付ファイル名：

応募者情報フォーム：「AppForm-筆頭発表者の苗字」をアルファベットで記載

　　　　　　　　例）山田花子さんの場合　AppForm-YAMADA.docx

応募原稿：「筆頭発表者氏名」をアルファベットで記載

　　　　　（苗字と名前の間にハイフンを入れる）

　　　　　　　　　　例）山田花子さんの場合　YAMADA-Hanako.docx

1. 応募締切：　2017年 5月31日（水）正午（東京時間: UTC+9）　必着
2. 原稿など送付先及び問い合わせ先：

MHB研究会　2017年度大会実行委員　　MHB.Conference2017@gmail.com

２．用紙・レイアウト・長さなど

1. 用紙　：B5判（182mm x 257mm）横書きワープロ原稿
2. 余白　：上下左右28mm
3. 字詰め：和文は37字（字送り9.65pt）×31行（行送り18pt）、英文は74字x31行
4. 原稿の長さ：

2ページ（口頭発表・ポスター発表・デモンストレー ションすべて同じ）

1. 使用言語：日本語あるいは英語。ただし、例示のために他言語の単語などを含むことは可能。

３．書式　（p.3以降をテンプレートとして使用のこと）

３.１　タイトル、発表者名、所属

1. 最初の行にタイトル（ゴシック体、12pt、中央寄せ）

副題がある場合は全角ダッシュ（―）ではさんで次の行に。（明朝体、12pt、中央寄せ）

1. 1行空けて、英文タイトル（Times New Roman，12pt、太字、中央寄せ）。副題がある場合は次の行の中央に。（Times New Roman，11pt、普通字体）
2. 1行空けて、氏名（カッコ内に所属）を記す。明朝体。12pt、右寄せ。

漢字表記の場合は姓名の間に半角スペース（例：山田 花子）、カタカナ表記の場合も姓名の順に並べ、間にナカグロを入れることとする（例：スミス・ジョン）。

所属については、大学院生の場合は身分を明記する（例：◯◯大学大学院 博士後期課程）。複数の場合、氏名と氏名の間は全角１文字分のスペースを入れる。1行におさまらない場合は改行して次の行に記す。

３.２　見出し、本文

1. 見出し：発表者名の次に１行あけて入れる。ゴシック体、10.5pt。

節）１．全角数字＋全角ピリオド＋見出し（太字）。

項）1.1　半角数字＋半角ピリオド＋半角数字＋半角スペース＋見出し（太字）。

節と節の間には空行を入れない。

1. 本文：見出しの次に1行あけずに書き始める。和文はMS明朝10pt、英数字はTimes New Roman 10pt。
2. 句読点：句点は「。」、読点は「、」を使用する。
3. カッコ ：（ ）「」『』ともに全角を使用する。
4. 数字 ：アラビア数字の場合、一桁は全角、二桁以上は半角とする。
5. 図表：図表のタイトル・表の中の文字は9ポイント。表のタイトルは表の上、図のタイトルは図の下に、行をあけずに表記する。
6. 本文中の文献表示：

* 著者名・刊行年を本文で表示する場合

山田・田中（1990）、Dressler and Kamil（2006）、Bialystok, Shenfield and Codd（2000）

* 著者名・刊行年を本文カッコ内で表示する場合

（山田・田中, 1990）、（山田, 2000; 斉藤, 2002）、（Cummins, 1981, 1991）、（Dressler & Kamil, 2006）、（Bialystok, Shenfield & Codd, 2000）など

* 著者名・刊行年を本文カッコ内で表示し、ページ数も記載する場合

（山田・田中, 1990, p.5）など

1. 注：稿末注とし、本文の直後、引用文献の前に入れる。9pt

本文中は「上付き」を使用し、右肩に「数字+パーレン」で示す。

1. 引用文献：引用したもののみを挙げること。9pt。複数行にわたる場合は２行目以降は半角5文字下げる。日本語文献（50音順）の次に欧文文献（アルファベット順）で記載。

４．注意事項

1. 必ずテンプレートを使用して作成してください。行間や文字間を狭めたり文字サイズを小さくしたりして2ページにおさめた場合、査読できない可能性があります。
2. 発表を認められた場合、応募原稿が原則として予稿集原稿となります。白黒で印刷されますので、網掛けなどの使用や図表は見やすさにご配慮ください。
3. 疑問の点は遠慮なく実行委員会までお問い合わせください。

タイトルタイトルタイトル

―副題―

**English Title:**

English Subtitle

スミス・ジョン（日本語研究所）　山田花子（○○大学）

田中一郎（ABC大学大学院　博士後期課程）

１．はじめに

ここから本文を始めます。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

２．調査概要

2.1 調査協力者

本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

表1　タイトル（ 表の上、中央寄せ、ゴシック・Times New Roman、9pt）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ゴシック・Times New Roman 9pt以上 |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

注（表の下、左寄せ、MS明朝・Times New Roman、9pt）

本文です。本文です。本文です。本文です。

　注（図の下、左寄せ、MS明朝・Times New Roman、9pt）

図1　タイトル（ 図の下、中央寄せ、ゴシック・Times New Roman、9pt）

2.2 調査方法

本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。（中略）　本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

（中略）

４．結果

本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

５．考察

　MHB研究会は2017年度研究大会を8月17日と18日の二日間にわたって開催する１。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。本文です。

注

1. MHBウェブサイトを参照した。http://mhb.jp/ （2017年4月19日アクセス）

引用文献

中島和子（2010）『マルチリンガル教育への招待—言語資源としての外国人・日本人年少者』ひつじ書房

乗次章子（2014）「バイリンガル環境にある幼児の文字概念認知と受容語彙の発達調査」『母語・継承語・バイリンガル教育研究』10, 116-135

湯川笑子（2016）「第８章　主流派言語母語話者の第2言語習得・学習」山本雅代・馬渕仁・塘利枝子他編『異文化間教育のとらえ直し』（pp.147-160）明石書店

Baker, C. (2011). *Foundations of bilingual education and bilingualism (5th ed.)*. Clevedon, UK: Multilingual Matters.

Creese, A., & Ackledge, A. (2010). Translanguaging in the bilingual classroom: A pedagogy for learning and teaching? *The Modern Language Journal, 94* (1), 103-115.

Cummins, J. (2009). Fundamental psychological and sociological principles underlying educational success for linguistic minority students. In T. Skutnabb-Kangas, R.Phillipson, A.K. Mohanty, & M. Panda (Eds.), *Social justice through multilingual education* (pp. 19-35). Bristol, UK: Multilingual Matters.

Dressler, C., & Kamil, M.L. (2006). First-and second-language literacy. In D. August, & T. Shanahan, (Eds.), *Developing literacy in second language learners: Report of the national literacy panel on language-minority children and youth* (pp.197-238). Mahwah, NJ: Erlbaum.